



2026年3月期 決算説明資料

2026年6月9日

油研工業株式会社
代表取締役社長 宮坂 篤

東証スタンダード：6393



2026年3月期 決算、2027年3月期 見込

■ 2026年3月期 決算

- ・ 以下要因により減収減益となるも配当額は1株当たり150円を維持
 - 日本 : 堅調な設備投資に支えられ増収。経常利益はコスト増により減益
 - 中国 : デフレ進行により減収減益。中国向け製品を製造する台湾も苦戦
 - インド : 上期の政治的要因による景気後退により減収減益
- ・ トピック : ユケンインディア増資 (約6億インドルピー)、JPN (株) 買収

■ 2027年3月期 見込

- ・ 日本は底堅い需要の取り込みとJPN連結、インドは前期反動による増収増益
- ・ 中国は在庫調整後の回復を見込み、連結では増収、利益横ばいを見込む
- ・ 配当額は安定的な配当方針通り1株当たり150円を維持の予定

新中期経営計画 (Step2) 進捗状況

■ 2028年3月期までの3カ年 (Step2) の2年目に

■ 2028年3月期達成目標と足下 ('26/3月期) 状況

- | | | |
|-----------------|---|-------------------|
| ①売上高 370億円 | ⇔ | 売上高328億円 |
| ②営業利益・経常利益 30億円 | ⇔ | 営業利益17億円・経常利益16億円 |
| ③ROE 8%以上 | ⇔ | ROE4.4% |

- インド成長の取込み、グループ内生産拠点の連携強化、グローバル戦略製品の市場投入を成長ドライバーとして成果を発揮し、次のステージへ

目次

- I. 会社概要**
 - II. 2026年3月期 決算の概要**
 - III. 2027年3月期 通期決算予想**
 - IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)**
 - V. Appendix**
-



- I. 会社概要**
- II. 2026年3月期 決算の概要
- III. 2027年3月期 通期決算予想
- IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
- V. Appendix

会社規模

- 東証スタンダードに上場する唯一の**専門油圧機器メーカー**
- 連結売上高:328億円、連結経常利益:16億円（2026年3月期）
- 従業員数 :1,401名（連結）、368名（単体）（2026年3月期）
- 主要工場 :国内2（相模事業所/神奈川県、袋田工場/茨城県）、
海外3（台湾、中国、インド）
- 連結子会社:国内2、中国4、インド2、台湾1、韓国1、タイ1、イギリス1

事業内容

- **油圧製品（ポンプ・バルブ等）製造販売**
 - ・ 成形機、ダイキャストなどあらゆる産業機械向けに供給
 - ・ 補用品としての需要も大
- **システム製品製造販売**
 - ・ 製鉄機械、インフラ関連など複雑な機能を必要とするシステム製品
 - ・ 工作機械など小型、省エネなど特異な機能を必要とするシステム製品
- **環境機械製造販売**
 - ・ 資源化物をリサイクルするための中間減容プレス機を製造販売

※資源化物・・・PETボトル、容器包装プラスチック、飲料缶、金属切削くず等

油圧の特長

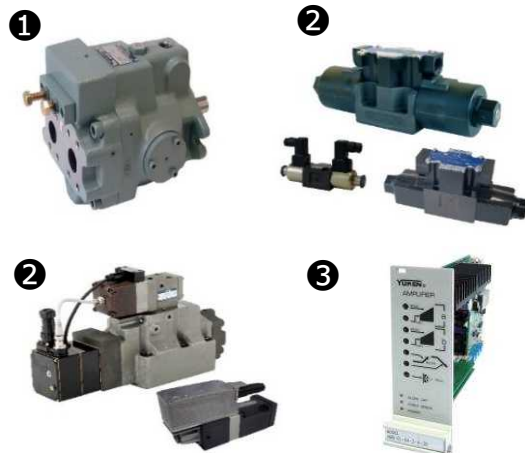
- ・油圧とは電気と同様に動力伝達方法の一つです。
- ・電気と比べ小型で大きな動力を伝達できるのが特徴です。油圧の用途は主に力で物を動かすことですが、小さな体格で大きな物を動かさせます。
- ・油圧機器には動力を油圧に変換するポンプ、力の大きさ、向き、速度を制御するバルブ、仕事をするアクチュエータ、これらを正常に保つ補器、運転状況を測る計器などが有ります。昨今は電気技術との融合で繊細な制御も可能です。

油圧製品

- ・油圧を利用するための各種機器
- ・圧力を発生させる油圧ポンプ、仕事の3要素（圧力・流量・方向）を制御する各種バルブ等で構成

主要製品

- ①油圧ポンプ・モータ
- ②油圧制御弁
- ③各種油圧制御機器

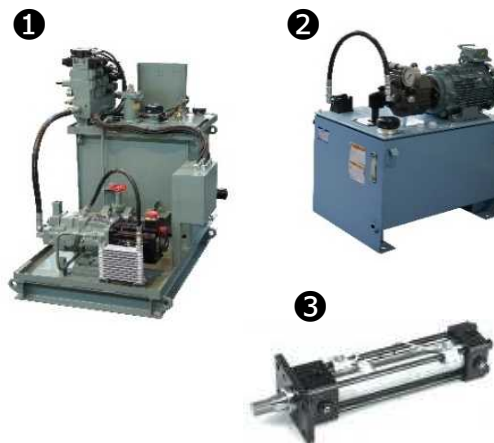


システム製品

- ・各種油圧機器や電動機、附属機器類を最適な形で組み合わせた油圧装置（=油圧ユニット）
- ・ポンプから供給される流体エネルギーを直線往復運動に変換するシリンダ

主要製品

- ①産業機械油圧システム
- ②標準油圧ユニット
- ③油圧シリンダ

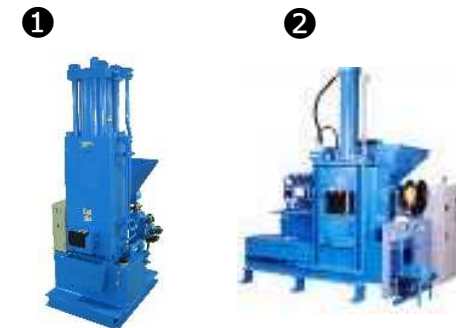


環境機械

- ・油圧事業のユーザと競合しない分野の油圧駆動機械
- ・1990年代以降の環境問題への関心の高まりに対応し、リサイクルなど環境負荷低減に貢献

主要製品：

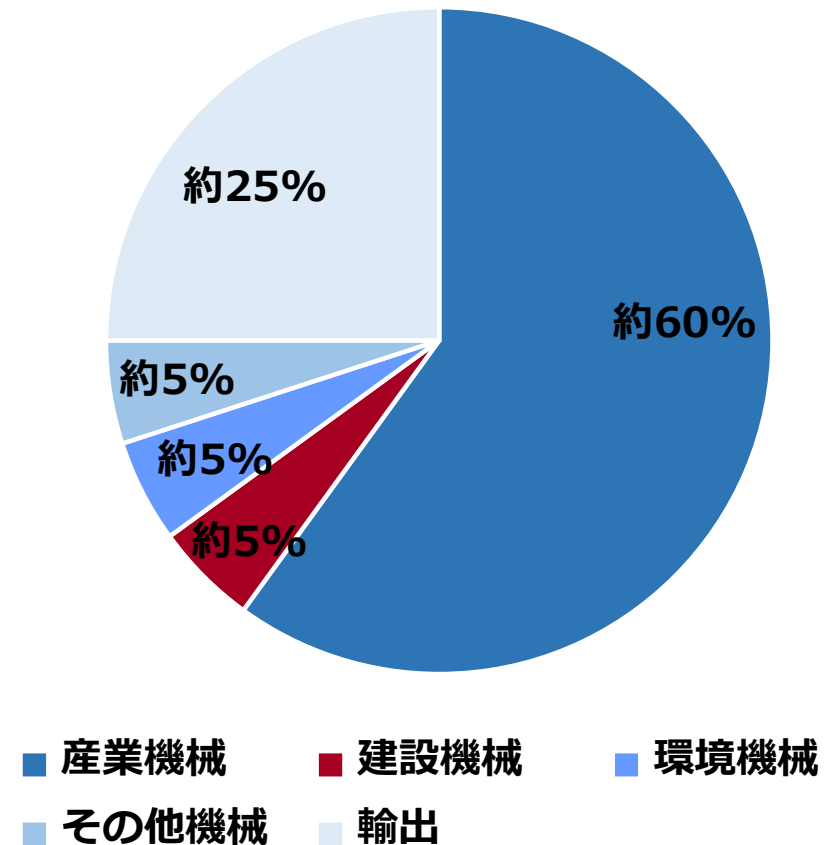
- ①自動切屑圧縮機（KIRIKO）
- ②自動PETボトル減容機



得意とする需要分野

- 産業機械
 - ・ 製鉄機械、鍛圧機械、工作機械、鋳造機械、成形機、試験機など
- インフラ関係
 - ・ 水力・火力発電所設備、上・下水処理施設、空港設備、港湾設備など
- 船舶・車両関係
 - ・ 貨物船、フェリー、フォークリフト、特殊車両、建設機械など

当社の単体売上構成比率



- I. 会社概要
- II. 2026年3月期 決算の概要**
- III. 2027年3月期 通期決算予想
- IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
- V. Appendix

前年同期比増減

単位：百万円

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績			
			増減率	2025年8月予想	予想比
売上高	33,496	32,864	△1.9%	32,400	+1.4%
営業利益	1,920	1,728	△10.0%	1,600	+8.0%
経常利益	1,923	1,697	△11.7%	1,400	+21.3%
純利益	1,249	1,044	△16.4%	850	+22.8%

(注1) 純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

(注2) 為替期中平均レート ('26/3期実績) 1USD = 150.97円

売上高

- 日本における底堅い需要を取り込むも、中国のデフレによる売上減とその影響による台湾の売上減、加えてインド市場の上期の政治混乱による売上減等が影響し、連結売上高は前年同期比1.9%の減収（前年同期比△631百万円）

利益

- 営業利益：中国市場の低迷、インド市場の上期の政治混乱からの売上減による減益（前年同期比△192百万円）
- 経常利益：支払利息増加（前年同期比+38百万円）等により、営業外費用が前年同期比50百万円増加し、経常利益を下押し
- 純利益：前年同期比16.4%減益なるも、'25年8月時点予想比22.8%増となる1,044百万円を確保

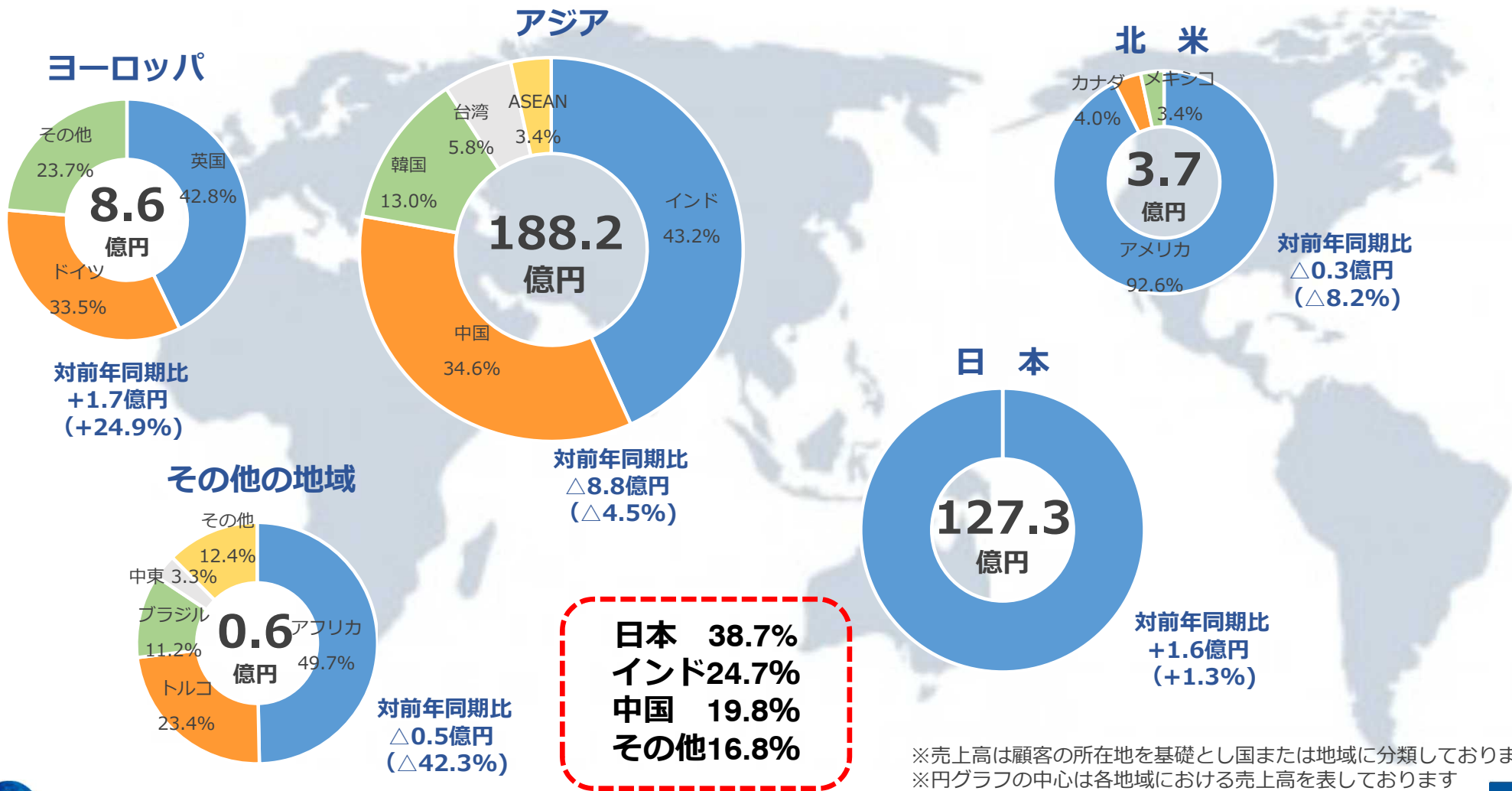


2026年3月期 地域別売上高

地域別売上高（連結消去後）

単位：百万円

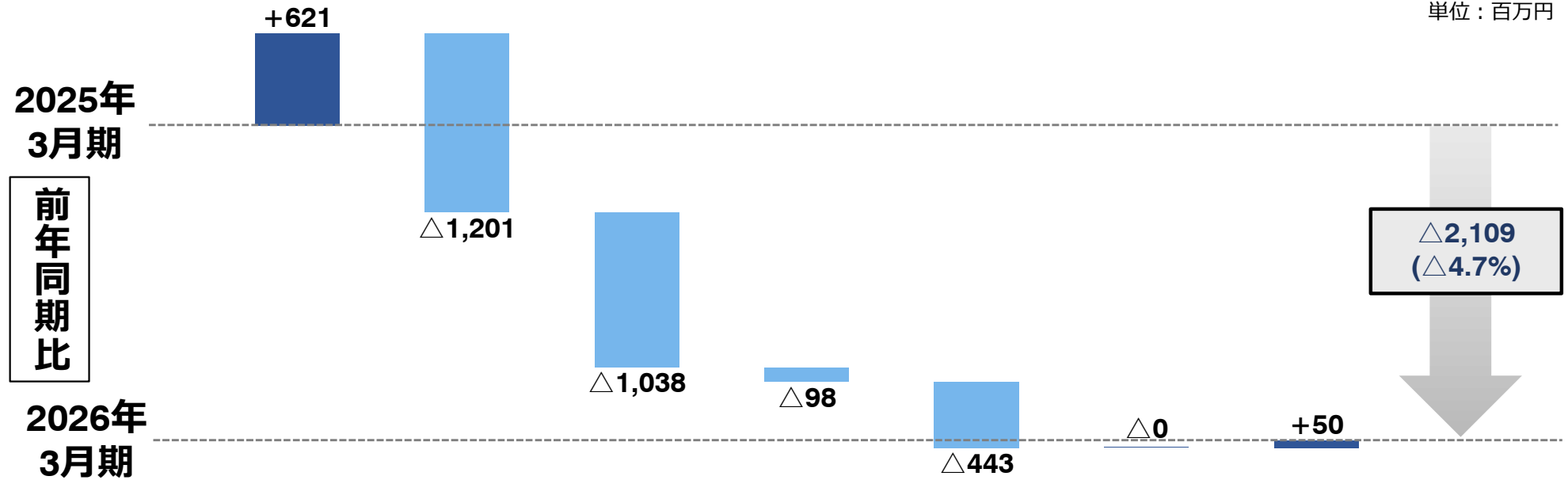
日本	アジア	北米	ヨーロッパ	その他	合計
38.7% 12,733	57.3% 18,825	1.1% 372	2.6% 864	0.2% 68	32,864



2026年3月期 所在地別売上高

(ご参考：連結消去前)

単位：百万円



	日本	中国	台湾	韓国	インド	アセアン	欧州	合計
2025年3月期	17,213	9,010	6,098	2,123	8,767	627	570	44,408
2026年3月期	17,834	7,809	5,060	2,025	8,324	627	620	42,299
増減	+621	△1,201	△1,038	△98	△443	△0	+50	△2,109

(注) 日本：油研工業(株)・(株)ユケンサービスの合計

中国：油研(上海)商貿有限公司・油研(仏山)商貿有限公司・油研液圧工業(張家港)有限公司
油研工業(香港)有限公司の合計

インド：YUKEN INDIA・GROTEKの合計



2026年3月期 経常利益増減要因

主な前年同期比増減要因（経常利益）

売上高減少

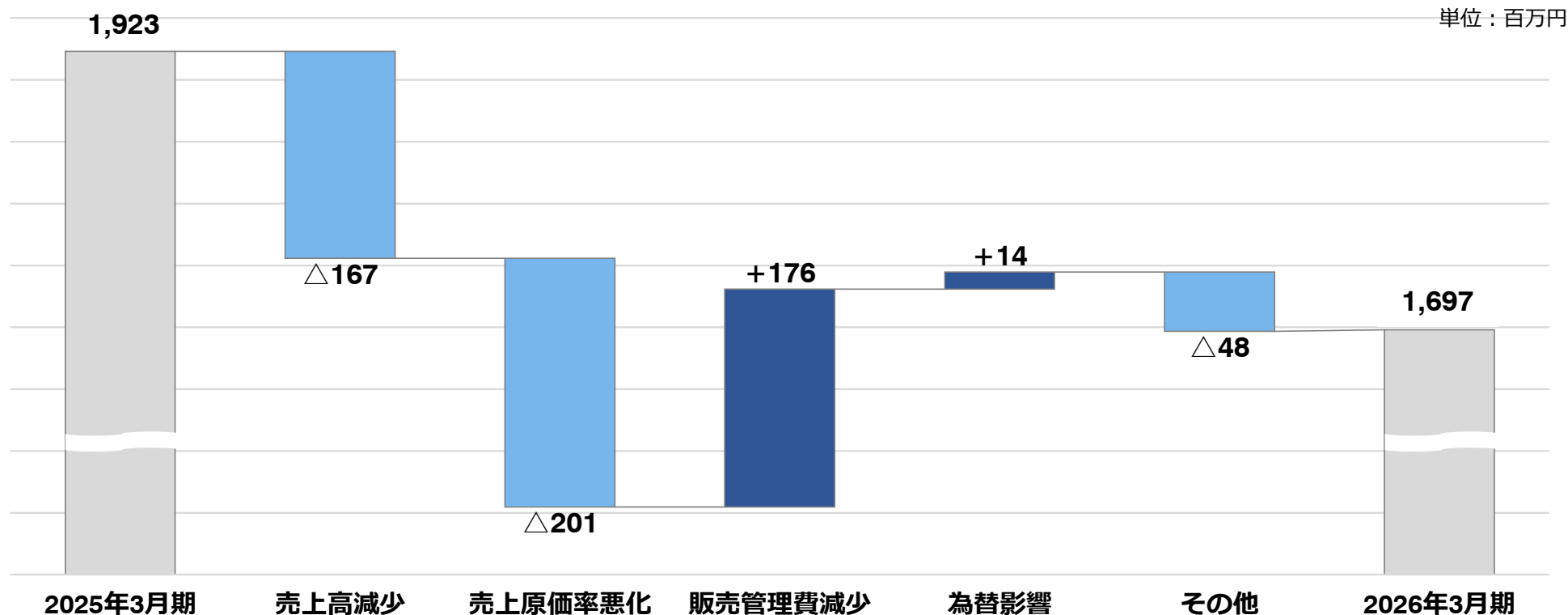
■ 中国、インドにおける売上減少

売上原価率悪化

■ 売上減少に応じた固定費削減未達

販売管理費減少

■ 売上減少地域における販売管理費の最適化が奏功



2026年3月期 連結貸借対照表

	2025年3月期	2026年3月期	増減
資産の部			
流動資産	29,495	30,595	+1,100
固定資産	16,726	18,102	+1,375
資産合計	46,222	48,697	+2,475
負債の部			
流動負債	12,715	13,258	+543
固定負債	5,986	7,749	+1,762
負債合計	18,702	21,008	+2,305
純資産の部			
株主資本	19,116	18,220	△895
その他包括利益累計額	4,680	5,260	+579
非支配株主持分	3,722	4,208	+485
純資産合計	27,519	27,689	+169
負債純資産合計	46,222	48,697	+2,475

- 資産の部 : 現預金+1,440百万円、売上債権△650百万円、棚卸資産+14百万円、有形固定資産+1,327百万円
- 負債の部 : 借入金+3,790百万円 (D/Eレシオ:0.46倍、ネットD/Eレシオ:0.12倍)
借入金残高 短期借入金6,636百万円、長期借入金4,187百万円、計10,824百万円
- 純資産の部 : 株主資本△895百万円 (内、資本剰余金△467百万円、利益剰余金+252百万円、自己株式△680百万円)
その他包括利益累計額+579百万円 (内、為替換算調整勘定+150百万円)



2026年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	2,084	2,037	△46
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,401	△2,582	△1,180
財務活動による キャッシュ・フロー	△578	1,925	+2,504
現金及び現金同等物に 係る換算差額	337	△51	△389
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	442	1,329	+887
現金及び現金同等物の 期首残高	6,064	6,508	+443
現金及び現金同等物の 期末残高	6,508	7,837	+1,329

- 営業CF：税金等調整前当期純利益1,700百万円（前期比305百万円減）、
売上債権減少801百万円（前期比1,256百万円収入増）、仕入債務減少1,125百万円（前期比775百万円
収入減）、棚卸資産減少155百万円（前期比434百万円収入増）、減価償却費1,386百万円
- 投資CF：有形固定資産取得による支出2,571百万円
- 財務CF：自己株式取得による支出680百万円、配当金支払788百万円



- I. 会社概要
- II. 2026年3月期 決算の概要
- III. 2027年3月期 通期決算予想**
- IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
- V. Appendix

前期比増減

単位：百万円

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想		
			増減額	増減率
売上高	32,864	34,500	+ 1,635	+ 5.0%
営業利益	1,728	1,750	+ 21	+ 1.2%
経常利益	1,697	1,700	+ 2	+ 0.1%
純利益	1,044	1,000	△ 44	△ 4.2%

(注1) 純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

(注2) 為替レート 1USD = 150.97円 ('26/3期実績)、150.00円 ('27/3期社内レート)

売上高

- 日本市場はJPNを連結に取り込み前年同水準を確保、インド復調し再度成長軌道に
- 中国市場は悪化基調から一転、母機輸出増等に伴う在庫調整後の回復を見込み、中国に輸出をする台湾も増収に

利益

- 人件費・原材料価格の上昇は継続。内製化推進等の製造原価低減策の実行を行うも営業利益率は'26年3月期比微減を見込む
- 社内為替レートはドル円で150円、為替差損益は見込まないが、為替動向により差損益発生も
- マーケット状況、原材料等の変動状況、競合他社動向等を睨み、必要に応じて再値上げも検討



世界経済

- 中東情勢の影響により、原油高、インフレ、景気減速の可能性

日本

- 建設機械は国内低迷も輸出が牽引し微増、工作機械向け需要は堅調を維持
- 射出成形機は低迷するも、船舶、エネルギー関連等が好調を維持

中国

- 不動産不況で内需低迷も、産業機械は輸出注力から底打ち
- 新興メーカーが成長中、供給過多によるデフレは継続

インド

- 全般的には引き続き堅調な経済成長が持続するため、増産体制維持
- 工作機械・製鉄機械・ゴム成形・エネルギー分野で需要継続

その他

- 台湾は中国の需要底打ちから、生産増加へ転換見込み
- 韓国・アセアン・欧州は微増を見込む

〈中東情勢による影響認識〉

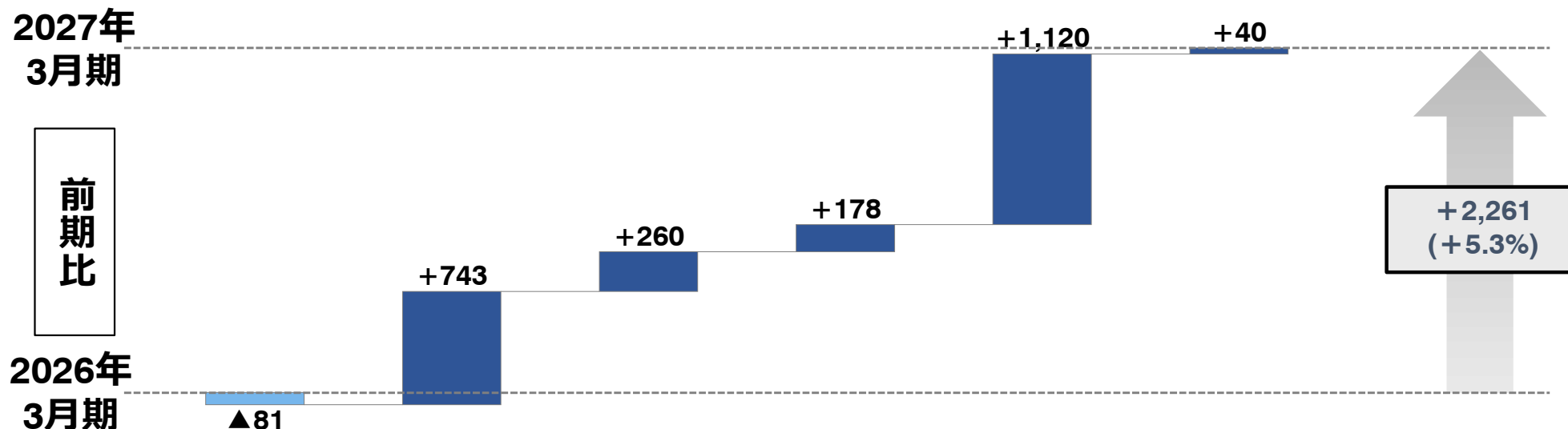
- ・ プラスチック部品、包装用ビニル、潤滑油等の石油を原料とする部材の入手がし辛い状況ではあるものの、現時点では生産に与える影響は限定的、ただしコスト面では悪影響を免れない
- ・ 世界経済への波及による間接的な影響は現時点で不明の為、当社の業績に与える影響は考慮できず、織り込まず



2027年3月期通期予想 所在地別売上高

(ご参考：連結消去前)

単位：百万円



	日本	中国	台湾	韓国	インド アセアン	欧州	合計
2026年 3月期	17,834	7,809	5,060	2,025	8,951	620	42,299
2027年 3月期	17,754	8,553	5,320	2,203	10,071	660	44,560
増減	△81	+743	+260	+178	+1,120	+40	+2,261

(注) 日本：'26年3月期は油研工業(株)・(株)ユケンサービスの合計

'27年3月期は油研工業(株)・(株)ユケンサービス・JPN(株)の合計

中国：油研(上海)商貿有限公司・油研(仏山)商貿有限公司・油研液圧工業(張家港)有限公司
油研工業(香港)有限公司の合計

インド・アセアン：YUKEN INDIA・GROTEK・YUKEN SEAの合計



2027年3月期 設備投資と減価償却

設備投資・減価償却の実績と計画

単位：百万円

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (計画)
設備投資額	1,611	1,909	2,541	2,100
減価償却費	1,201	1,353	1,386	1,500

2027年3月期（計画）の設備投資の内容

地域	投資額	投資内容
日本	650	生産能力増強、省人化、老朽化更新、環境改善、サステナビリティ対応
海外	1,450	台湾：部品内製化、老朽化更新
		インド：製造品質向上、設備の自動化、研究開発投資
		中国：生産性向上、老朽化更新、環境改善



2027年3月期 経常利益増減要因

主な前期比増減要因（経常利益）

売上高増加

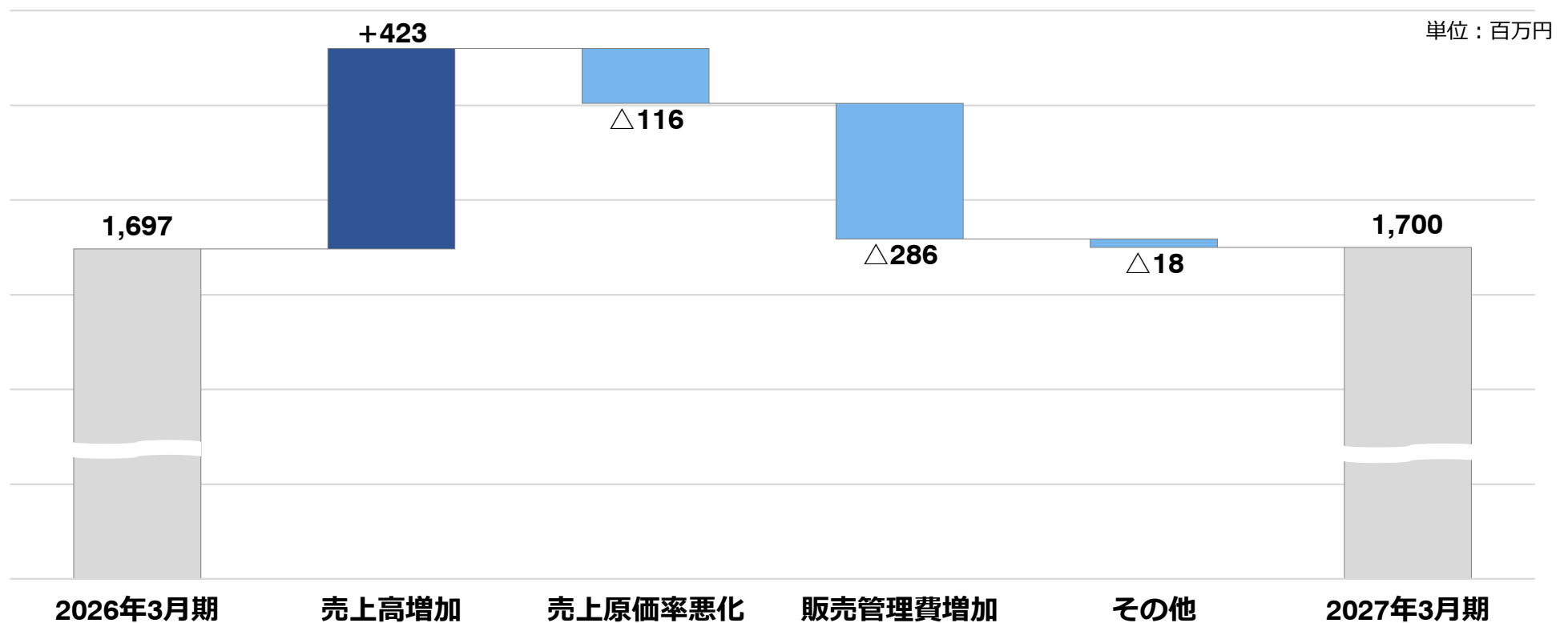
■ 中国市場の売上底打ち、インド市場の売上回復

コスト増

■ インフレ、人件費増によるコスト増で売上原価、販売管理費増

その他

■ 為替差益の減少、支払利息の増加等



2027年3月期 株主還元

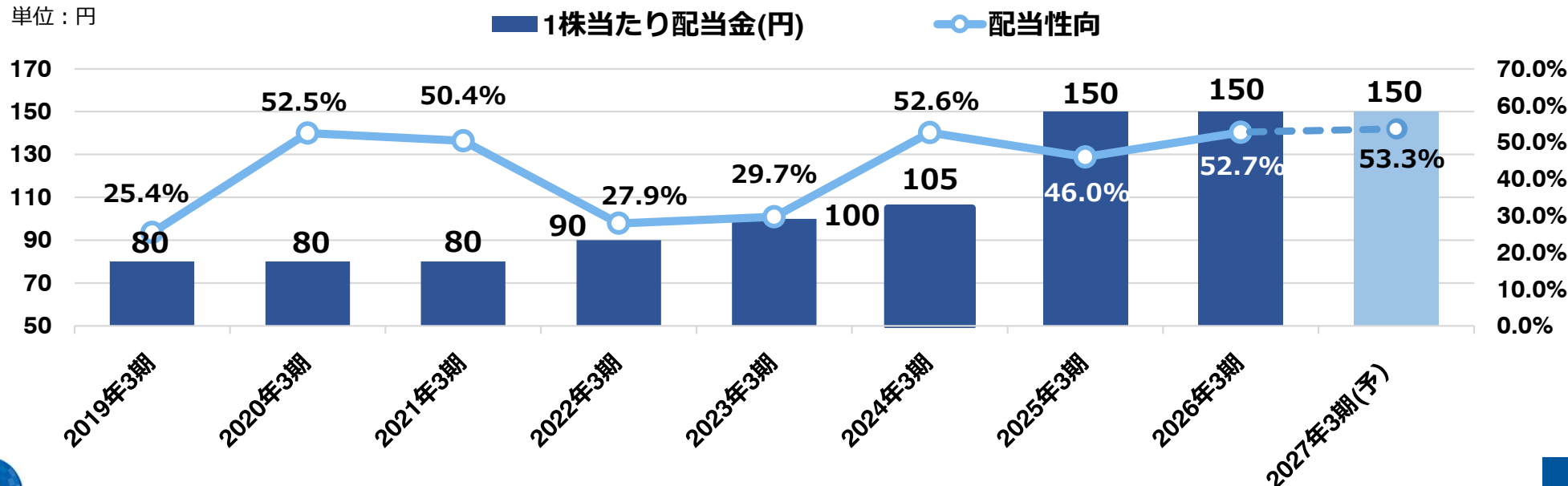
資本政策

- ① 配当政策 … 配当性向50%程度を基準とする（基本方針「安定的な配当の継続」）
- ② 自己株取得 … 総還元性向70%を目途に自己株取得を実施
 - ・ 2025年3月期決算に伴う自己株取得
→ 取得株式総数234,100株、取得総額6.7億円、総還元性向約100%
 - ・ 2026年3月期決算に伴う自己株取得
→ 現状実施せず。機動的な実施の可能性は排除せず
 - ・ 2027年3月期決算に伴う自己株取得
→ 総還元性向70%を目途に実施

配 当

- ・ 2026年3月期 期末配当：1株につき90円（中間期と合わせ150円）、配当性向52.7%
（株主総会決議事項）
- ・ 2027年3月期 配当予想：1株につき150円（中間期60円、期末90円）、配当性向53.3%

単位：円



- I. 会社概要
- II. 2026年3月期 決算の概要
- III. 2027年3月期 通期決算予想
- IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)**
- V. Appendix



経営理念

『Living with Hydraulics』 ~油圧と共に生きる~

油研グループは「油圧と共に生きる」を経営理念として、顧客のニーズに寄与する価値を創造・提供していくことを使命とし、グローバルサプライヤーとして広く産業の発展に貢献していく企業であり続ける

ありたき姿

**これから100年、油圧専門メーカーとして
品質と信頼で社会に貢献する真のグローバル企業**

— 真のグローバル企業の定義 —

1. 全世界に認知されるブランド力を保有する企業
2. グローバル製造業として最適な供給体制を保有する企業
3. ESGを意識した経営を積極的に行い社会に貢献する企業
4. ステークホルダーから信頼される企業

サマリー

私たち油研グループは現状を取り巻く環境とこれまでの反省を踏まえ、2030年までの中長期ビジョンを策定しました。2022年度～2030年度を3年ごとの3ステップとし、ステップごとの到達目標を定めました。最終ステップは数値化せず目指すべき姿に留めています。

第3期 (Step 3) 真のグローバル企業への進化

2028~30
Step3

★ 挑戦による事業の拡大

- ① 新たな市場（航空宇宙、水圧等）への挑戦
- ② 新たな事業（油圧ロボット等）への挑戦
- ③ 未開地への油圧技術浸透に挑戦

第2期 (Step 2) 成長戦略の実践

2025~27
Step2

★ 拡大による利益率向上

- ① 高収益市場でのシェア拡大
- ② 再投資による最先端化製品の拡大
- ③ 環境に配慮した製品群の拡大

第1期 (Step 1) ありたき姿への基盤作り

2022~24
Step1

★ 投資と再編による基盤作り

- ① 工場・製品の最先端化に向けた積極的な投資
- ② 品質・供給量を担保したサプライチェーン構築
- ③ 新たな基盤を支える本社機能の再編
- ④ 全てを支える人の多様化推進と組織再編



長期ビジョン 中期経営計画 (Step2) 進捗状況

Step2目標に対する進捗

	連結売上高	海外売上比率	営業利益	経常利益
(Step2) 2028年3月期計画	370億円	65%以上	30.0億円	30.0億円
2026年3月期実績	328億円	61.3%	17.2億円	16.9億円
	自己資本比率	ROE	配当性向	総還元性向
(Step2) 2028年3月期計画	40.0%以上	8.0%以上	50.0%目途	70.0%目途
2026年3月期実績	48.3%	4.4%	52.7% (株主総会決議事項)	52.7% (株主総会決議事項)
	設備投資	開発投資	CO ₂ 排出量	環境投資
(Step2) 2028年3月期計画	100億円	25億円	30.0%削減	1億円
2026年3月期実績	78.6億円	18.1億円	11.4%削減	0.4億円

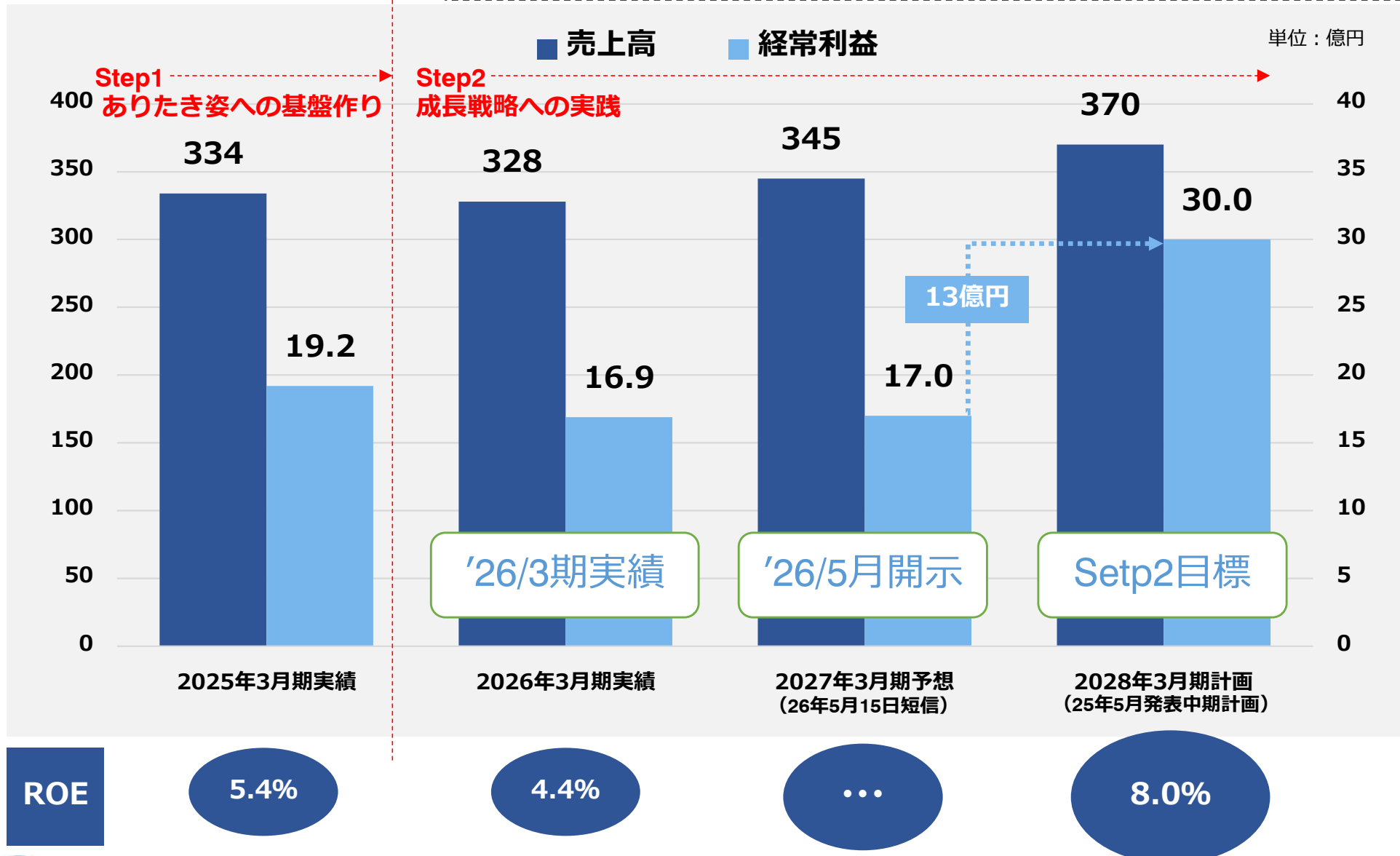
※2022年3月期比
各製造工場排出量合計



長期ビジョン 中期経営計画 (Step2) 進捗状況

売上・収支の実績と計画

2026年3月期はStep2の1年目、足下売上は目標に向け順調に推移している認識。一方、利益面は30億円の経常利益目標に対しテコ入れが必要な状況。GSC構想の実現、インド市場の成長取込み等、あらゆる方策にて達成を目指す方針。



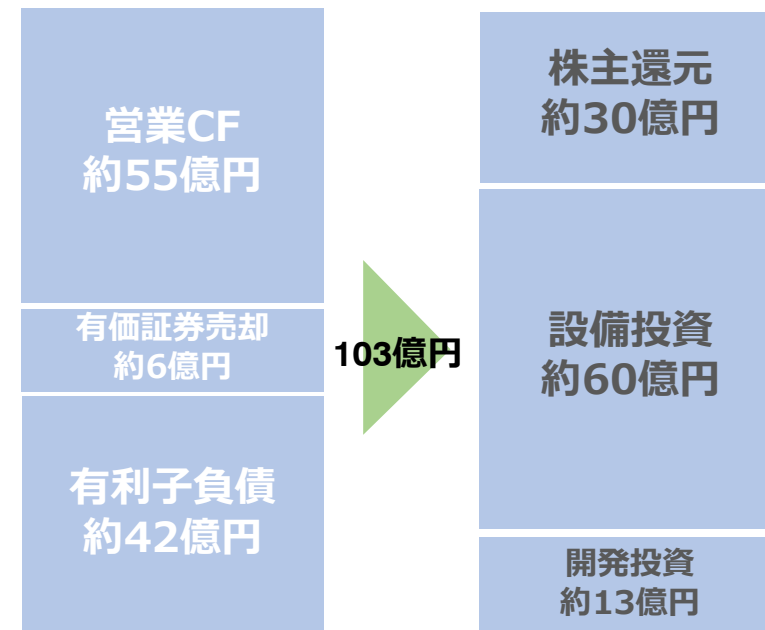
長期ビジョン 中期経営計画 (Step2) 進捗状況

キャッシュアロケーション進捗

Step1~2計画
(2024年3月期~2028年3月期 累積)



Step1~2実績
(2024年3月期~2026年3月期 累積)



1) YUKEN INDIAへの支援拡大

- ▶ インドへの投資継続。投資内容は生産能力拡大、品質強化が中心
- ▶ 品質向上に向けた人的支援拡充（生産技術、品質保証、機械設計）
- ▶ ギアポンプの拡販

2) アメリカ市場でのシェア拡大

- ▶ アメリカで生産を開始した小型システム製品の拡販
- ▶ 有力販売店とのベンダー契約推進、代理店とのシナジー強化
- ▶ 中南米代理店との関係強化

3) 高付加価値商品開発と提案営業の推進

- ▶ 蓄積された要素技術と製品の融合
- ▶ 国内外特定大手需要先との連携強化、特定客先向製品開発（複数のコア先の確保と深堀）



4) グローバルサプライチェーン (GSC) 構想の仕上げ

- ▶ 製品移管の推進【継続】（品質維持のための品質管理体制・監査体制の整備、材料・部品のグローバル共通化の検討・推進）
- ▶ 内製化の推進【継続】

5) 優良M&A先の検討

- ▶ 当社の技術幅の拡大、市場の裾野拡大に資するクロスボーダー案件を中心に適宜アプローチ

6) ESG経営の実践

- ▶ サステナビリティ推進委員会での活動を継続
- ▶ CO2排出量削減目標：2028年3月期△30%（2022年3月期比）
日本、インドで太陽光発電導入
環境証書購入、CO2フリー電力の活用も検討

- I. 会社概要
- II. 2026年3月期 決算の概要
- III. 2027年3月 通期決算予想
- IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
- V. Appendix**

会社概要

会社名	油研工業株式会社
本社所在地	神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
設立年月日	1956年10月10日
資本金	41億910万円
上場区分	東証スタンダード（コード：6393）
従業員数	連結1,401名、単体368名
代表者	宮坂 篤
事業内容	油圧製品、油圧システム製品、環境機械の開発・製造・販売
国内製造拠点	本社・相模事業所、袋田工場
国内販売拠点	東京支社、大阪支社、札幌営業所、長野営業所、相模営業所、名古屋営業所、広島営業所、福岡営業所
国内グループ会社	株式会社ユケンサービス、JPN株式会社、株式会社北陸油研
海外グループ会社	油研（上海）商貿有限公司、油研（仏山）商貿有限公司 油研液圧工業（張家港）有限公司、油研工業（香港）有限公司 台湾油研股份有限公司、韓国油研工業株式会社 YUKEN INDIA LIMITED、YUKEN SEA CO., LTD. YUKEN EUROPE LIMITED、Yuken North America Corporation Grotek Enterprises Private Limited

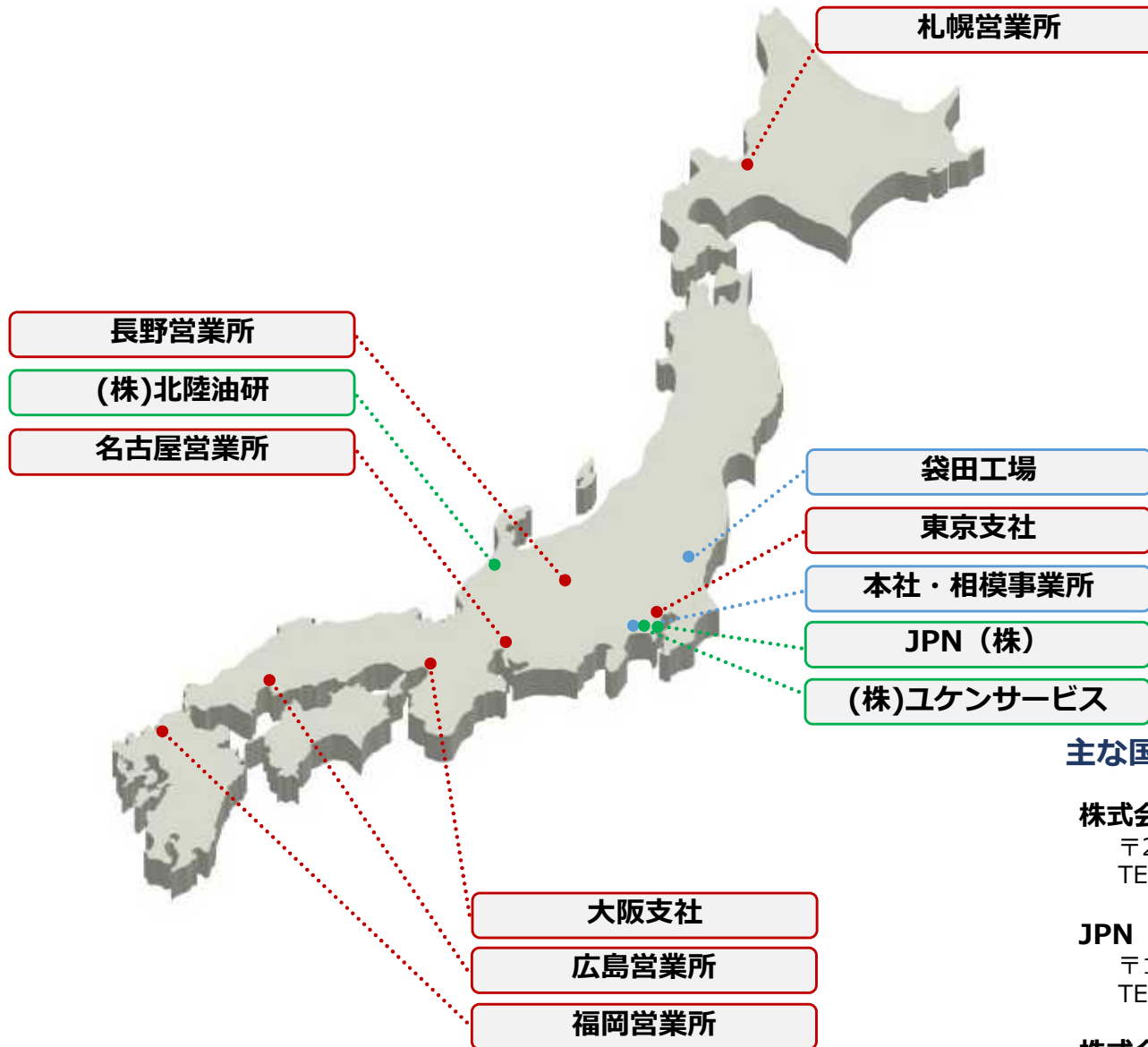


代表取締役社長 宮坂 篤

（2026年3月末現在）



- = 販売拠点
- = 生産拠点
- = 関係会社



袋田工場/茨城県



本社・相模事業所/神奈川県



主な国内関係会社

株式会社 ユケンサービス

〒252-1113 神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
TEL : 0467-77-0101 FAX : 0467-77-5005

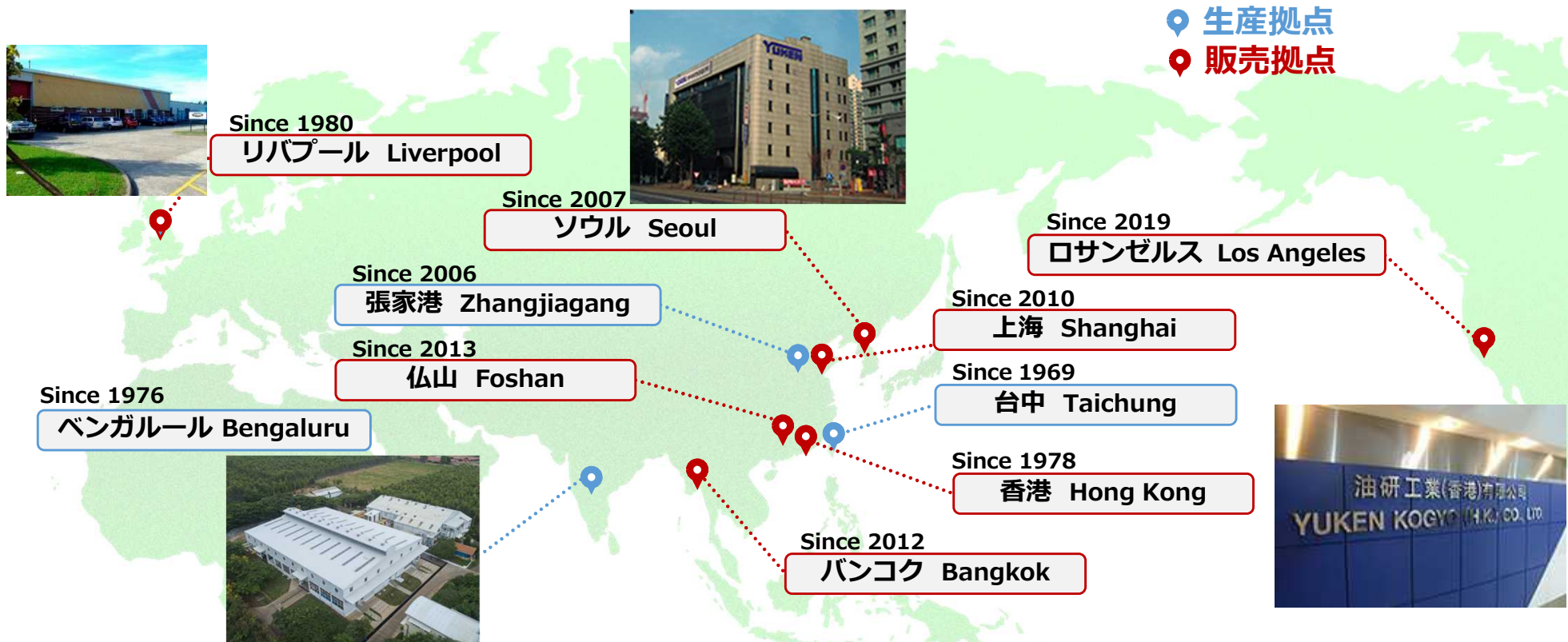
JPN 株式会社

〒146-0093 東京都大田区矢口三丁目28番1号
TEL : 03-3756-2313 FAX : 03-3756-2343

株式会社 北陸油研

〒920-0059 石川県金沢市示野町西117
TEL : 076-268-9779 FAX : 076-268-9177





製造拠点	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械	販売地域	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械
本社・相模事業所	●	-	●	●	日本	●	●	●	●
袋田工場	-	●	-	-	中国	●	●	●	●
台湾	●	●	●	-	インド	●	●	●	●
中国	●	●	-	-	その他アジア	●	●	●	●
インド	●	●	●	●	欧米	●	●	●	-
					その他	●	●	●	-

※円の面積は正確な取扱高ではなく、イメージとしてご認識下さい



拠点設立

1929 結城工作所として創業

1929

1945 茨城・袋田工場を新設

1940

1945 茨城・袋田工場を新設

1950

1956 油研工業株式会社に改組

1960

1969 台湾油研股份有限公司を設立

1970

1970 神奈川・綾瀬に相模工場を新設

1976

1976 YUKEN INDIA LIMITEDを設立

1978

1978 油研工業（香港）有限公司を設立

1980

1980 YUKEN EUROPE LIMITEDを設立

2000

2004 本社・藤沢工場を相模事業所に統合

2006

2006 油研液圧工業(張家港)有限公司を設立

2007

2007 韓国油研工業株式会社を設立

2010

2010 油研（上海）商貿有限公司を設立

2012

2012 YUKEN SEA CO., LTD.を設立

2013

2013 油研（仏山）商貿有限公司を設立

2019

2019 Yuken North America Corporationを設立

2020



台湾台中市



中国江蘇省張家港市

商品開発

1940 ベーンポンプの国産化に成功



ベーンポンプ



DSG-01 電磁弁



EHシリーズ

1978 直動形電磁弁Kシリーズ販売開始（主力製品）
（日刊工業新聞10大新製品賞受賞）

1987 EHシリーズが機械振興協会賞を受賞
（射出成形機市場向けに開発）



LSV(H)Gシリーズ

2001 高速リニアサーボ弁
LSV(H)Gシリーズ発売（電気-油圧技術の融合）

2008 ASR シリーズAC サーボモータ駆動ポンプ発売
（省エネルギー製品）



ASRシリーズ



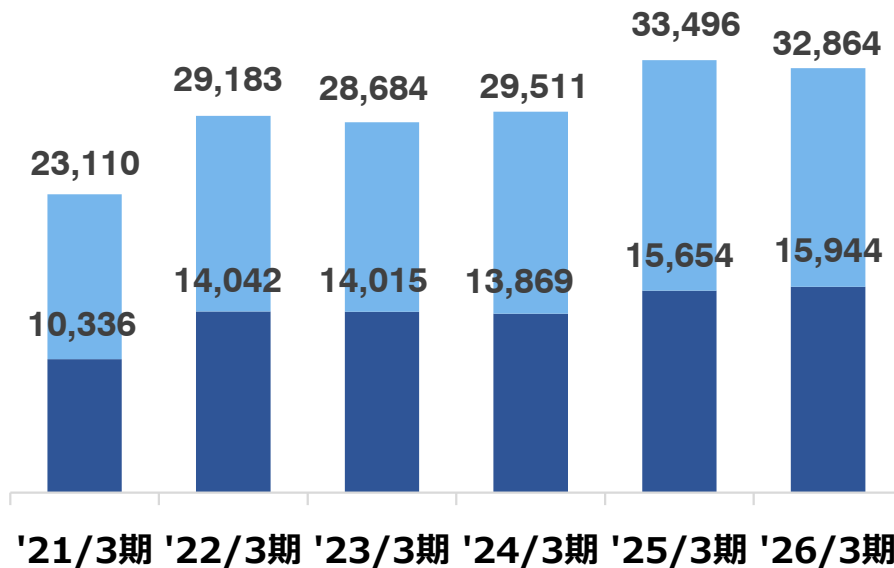
A3HMシリーズ

2020 A3HMシリーズ高圧可変ピストンポンプ発売
（建設機械・車両用）

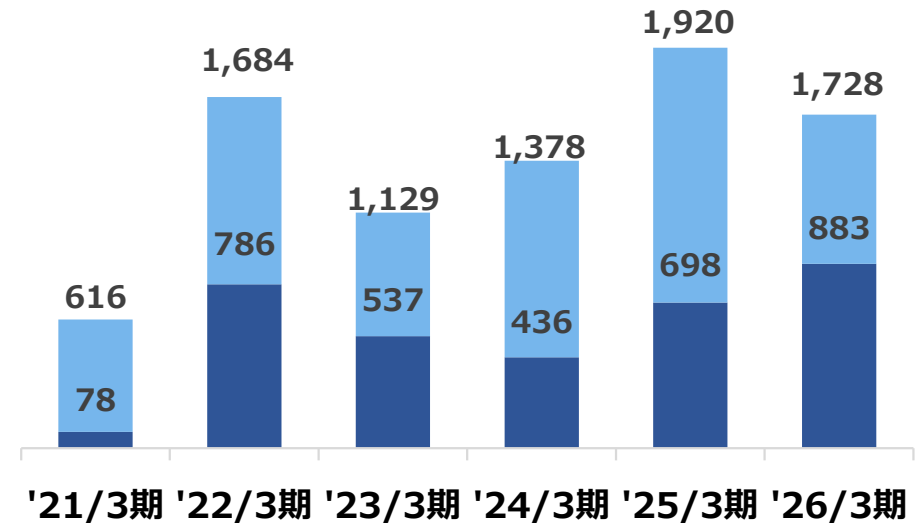
単位：百万円

■ 第2四半期 ■ 通期

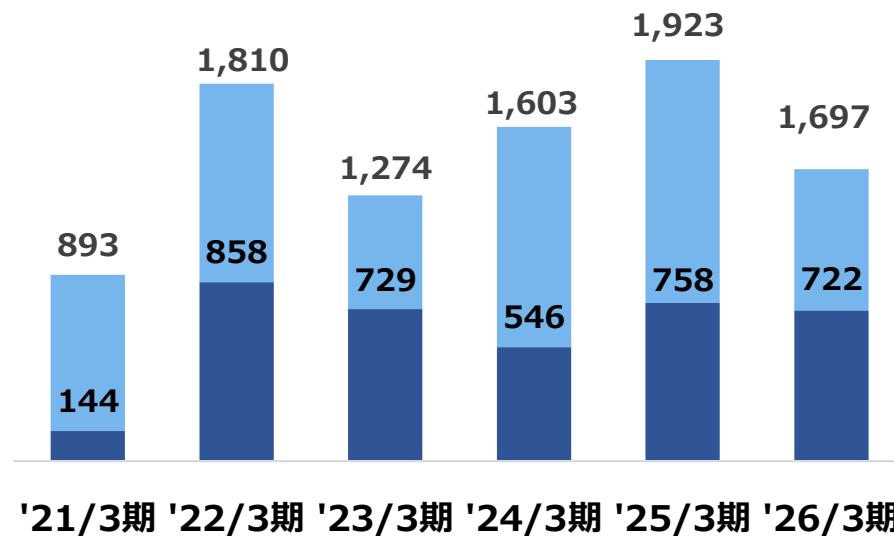
売上高



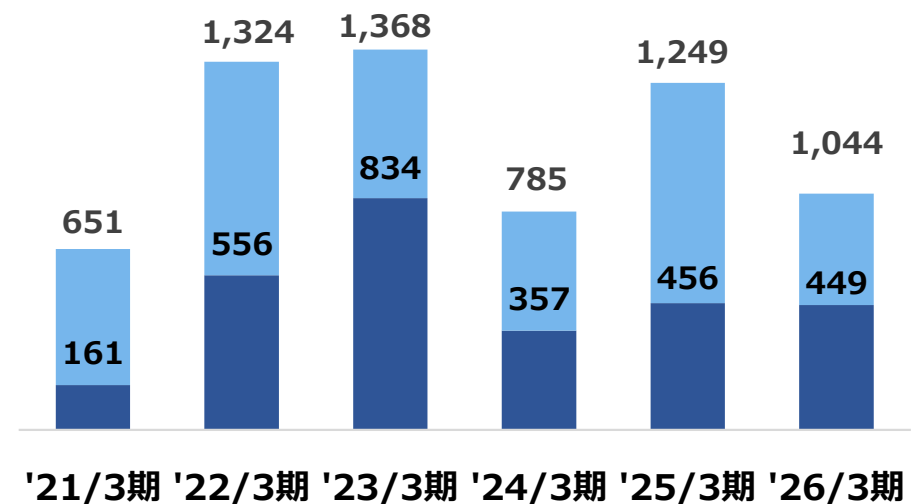
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益



グローバルサプライチェーン(GSC)構想の実現

グループ連携強化によるシナジー発揮

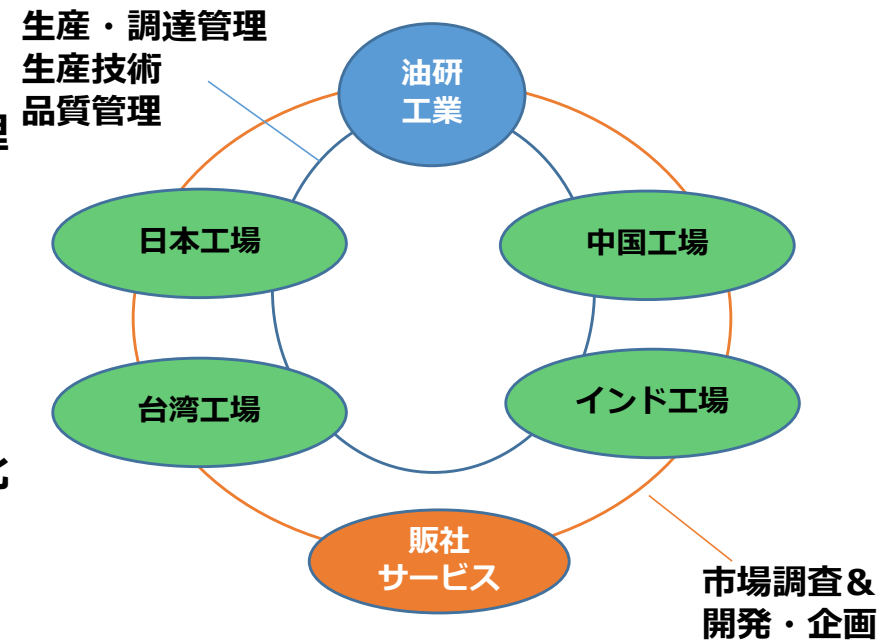
適材適所、相互供給、情報連携、グループ統制により効果的行動の迅速化

1 生産拠点連携によるシナジー

- ① 油研工業をコントロールタワーとする生産管理
- ② 地の利を活かした生産体制
- ③ 拠点間相互供給による納期・コストの最適化

2 グループ連携によるシナジー

- ① 販社も含めた情報統制による生産計画の最適化
- ② 組織的市場調査による開発計画の最適化
- ③ 組織的販売戦略による市場浸透の深化



成長戦略 ②インド市場の取込み

インドのグループ会社概要

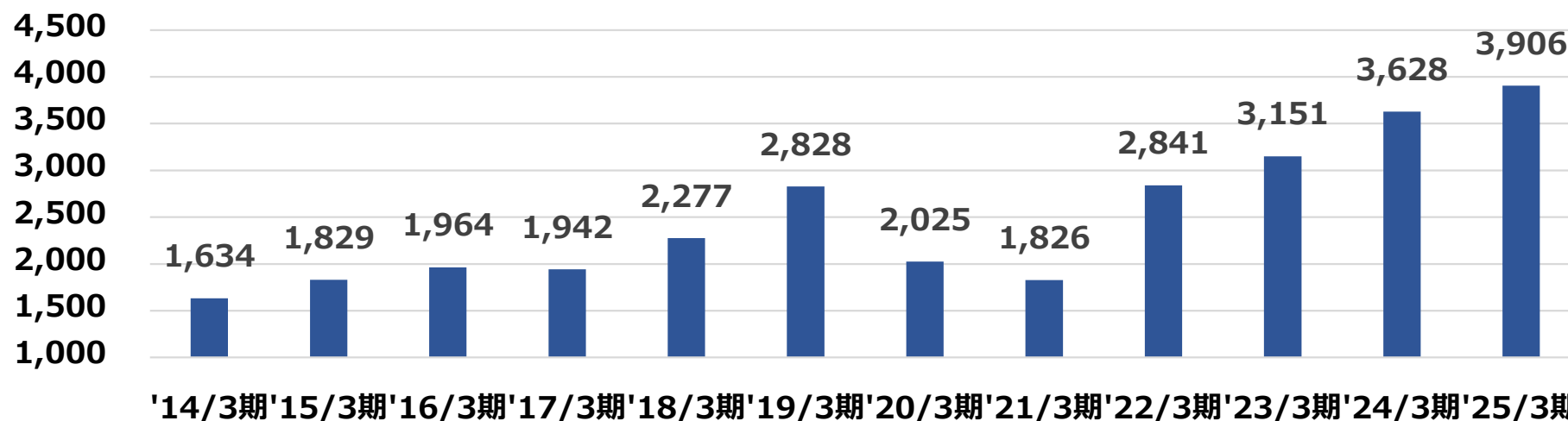
会社名	YUKEN INDIA LIMITED
所在地	Bengaluru INDIA
設立	1976年
資本金	135.84百万インドルピー（油研工業持株比率47.0%） ～インド国立証券取引所上場
従業員数	約500名
主要子会社	GROTEK(鋳物製造) CORETEC（電装品等製造）
主要製品	油圧製品、システム製品、環境機械



新標準機器工場

売上高推移（期別）

単位：百万INR



成長戦略 ② インド市場の取込み

YUKEN INDIA LIMITED

YE3工場



インド市場の需要に対する生産能力確保を目的とした標準機器工場を新設。本格稼働時には現状の倍以上の生産能力に

ギアポンプ工場



インド国内の建設、農業市場の増加を取込むべく、ギアポンプ専用工場化による生産能力を増強

GROTEK

鋳物工場入口



Line-3



小型製品生産量拡大に向け、3本目のライン（Line-3）を増設中。グループ内供給の拡大を図る

次世代型グローバル製品の開発

近未来の世界要求に合致

1 DSG-01 Series 1/8口径電磁切換弁



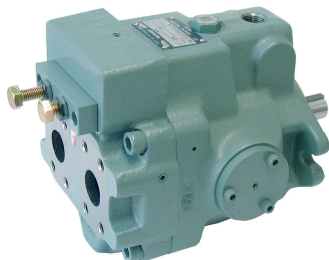
DSG-03 Series 3/8口径電磁切換弁

日本、インドの2拠点で生産。
2027年4月の市場投入を目指す。

- ① 納期対応力を“強み”とした世界シェア（世界販売台数）の増加
- ② 原産地格差の無い業界最高水準のグローバル機種開発と市場投入

③ DSG-01の開発ノウハウを活かしDSG-03の開発を進める

2 A Series 可変ピストンポンプ



最近の需要変化を捉え開発方針を一部変更。
世界最高の高効率を目指す。

- ① 軸受け、摺動部の損失軽減
- ② 効率的な構造の追求

油圧機器需要部門別出荷額見通し

単位：百万円

	2025年3月期実績			2026年3月期実績			2027年3月期見通し		
		構成比 (%)	前期比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)
土木建設機械	163,672	46.0	0.3	159,663	44.9	△2.4	164,500	44.4	3.0
農業機械	6,123	1.7	△1.2	5,911	1.7	△3.5	6,150	1.7	4.0
プラスチック機械	5,159	1.5	4.7	4,878	1.4	△5.4	4,970	1.3	1.9
工作機械	12,089	3.4	△6.1	11,727	3.3	△3.0	12,540	3.4	6.9
金属一次	5,548	1.6	28.8	4,185	1.2	△24.6	4,150	1.1	△0.8
金属二次	6,322	1.8	△3.3	6,361	1.8	0.6	6,430	1.7	1.1
自動車（特装車）	7,407	2.1	△5.2	7,291	2.1	△1.6	7,290	2.0	±0.0
産業車輛	7,230	2.0	6.2	6,500	1.8	△10.1	6,520	1.8	0.3
船舶	11,333	3.2	16.5	11,100	3.1	△2.1	11,540	3.1	4.0
その他	130,617	36.7	3.7	137,658	38.7	5.4	146,500	39.5	6.4
輸出	103,270	29.0	4.9	110,688	31.2	7.2	118,500	32.0	7.1
その他	27,347	7.7	△0.5	26,970	7.6	△1.4	28,000	7.6	3.8
合計	355,500	100	2.0	355,274	100	△0.1	370,590	100.0	4.3



(出所) 日本フルードパワー工業会

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油圧の使用例

工作機械

鉄・アルミ・プラスチックなどの工業素材を、切削・研削・研磨などの工程を用いて所定の寸法・形状に加工する機械



【油圧使用箇所】

チャック機構：

工作機械で加工する工業素材 (ワーク) が動かないよう固定する機能 (= チャック)

ホーニング機構：

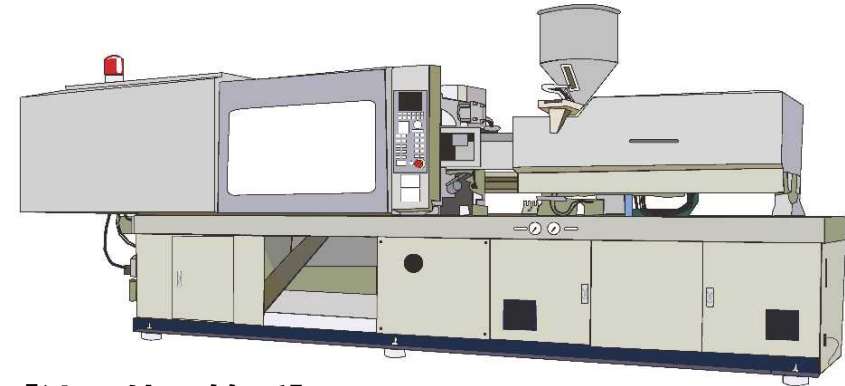
ワークの内面を精密に研磨するための回転工具の操作

研削盤テーブル送り機構：

ワークの表面を砥石で仕上げる研削盤のテーブルの往復運動の制御

射出成形機

プラスチック素材を熱で溶かし、金型に流し込んで成形する機械 (溶かしたプラスチックを高圧・高速で金型内に射出することで、複雑な形状の製品を精密かつ大量に生産)



【油圧使用箇所】

型締め： 樹脂の注入により金型が開かないよう締め付け

ノズルタッチ： 金型に樹脂を注入するためノズルを固定

射 出： 溶かした樹脂の金型への注入

保 圧： 固まるまで樹脂の圧力を保持

型開き： 固まった成形品を取り出す金型操作

突出し： 金型内成形品を取出すためのピン操作

会社概要

- 社名 : JPN株式会社（当社出資比率100%）
- 資本金 : 39.8百万円
- 設立 : 1977年10月
- 売上高 : 4.4億円、経常利益:4百万円（2025年6月期）
- 従業員数 : 約40名（嘱託、パート含む）
- 主要製品 : ミニ油圧シリンダ、揺動アクチュエータ、油圧クランプ関係機器 等
- 取得時期 : 2025年10月28日に100%の株式を取得し当社グループ傘下へ

製品群

油圧シリンダ

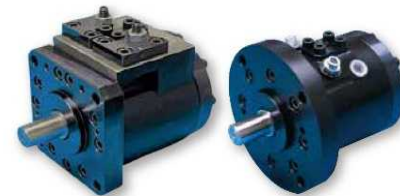


ミニ油圧シリンダ（標準品）3.5MPa~21MPa

揺動アクチュエータ



空気圧ロータリーアクチュエータ
ニューマリッド



油圧ロータリーアクチュエータ
ハイドロロータ

油圧クランプ関係機器



ロボット制御用
サーボ弁付き低摩擦油圧シリンダ



医療機械向け
テレスコープシリンダ



磁気近接スイッチ



ミニ油圧クランパー



油圧クランプシステム機器

ご質問

'26年3月期見通しについて、上期増益、通期減益で、下期が厳しいとの認識。前期も下期が厳しいとの事だったが、最終的にはインドが想定以上に良かった。今期はどの様に予想しているのか。

インドへの増資があり、生産の拡大を図るとのことだが、どの機種を増産するのか。

インド市場で事業をしていて実際に感じる肌感覚を教えてください。

ご回答

今期の上期は受注残が残っているが受注は良くない状況。受注残で上期売上が確保できる。下期は受注の不調が影響し売上が落ちる見通し。なお、前期下期において、当社のインド事業が良かったのは GROTEK社を連結に組み入れたことが影響している。

インド市場の農業機械分野に今後油圧機器を納めたいと考えている。その為のギアポンプ工場の新設を行う。その他は既存製品のバージョンアップと増産を図る方針。

政治の影響が大きいと感じている。去年は選挙で与党が議席を落としたので、経済では無く貧困層に資金を振り向け景気が低迷した。今期は経済に資金を振り向けると聞いており、景気は回復傾向になると見込んでいる。

ご質問

今年度の日本における設備投資額の内容を教えてください。具体的にどのような機械を入れるのか、また、高機能ハイエンド製品のラインなのか等を教えてください。

中期経営計画記載のモバイル事業とは何なのか。

中期経営計画での3カ年のキャッシュアロケーションでは、残り65億円分設備投資が残っている。今期の設備投資額が21億円だが、21億円が3カ年続くのか。また、設備投資の内容を教えてください。

ご回答

日本の設備投資は多岐に渡り、老朽化更新もある。一方、主力製品である電磁弁のデザイン更新の為に加工ラインの変更や、ハイエンド製品であるサーボ弁増産の為に放電加工機、ワイヤーカット機、研磨機の台数を増やす予定。

移動する油圧機器をモバイルと呼ぶ。例えば、特殊車両や、トラクターなどの農業機械。ご質問の中期経営計画記載のモバイル事業とは、インドの農業機械向けの事業。今までは小さな事業であったが、今後大々的に参入しようとしている。まずはインド市場でスタートし、品質が安定したところでその他の地域に拡販したい。

インドの生産力増強の為に設備投資が大きい。先般もインドへの増資を10億円程度実施した。また、インドでも独自に資金調達を行い、設備投資を行う。日本でも工場の建替えがあり、その他老朽化更新も随時行う予定。



ご質問

日本の利益率が低いのは、本部経費など含まれるからでしょうか。もしそうでないのであれば、営業利益率を上げるための施策を教えてください。

アメリカを拡大させる余地があるとのことですが、その具体策についてうかがいたい。自力か、あるいはパートナーがいるか。また3年、5年といった時間軸についてもうかがいたい。

ご回答

日本の利益率が飛び抜けて低いということはない。今期は特に人件費上昇が大きく、市場環境も踏まえて値上げで対抗していく方針ですが、値上げが人件費、固定費の増加に追いついていないのが収益を押し下げている要因。今後も市場動向に合わせる必要があるが、可能な限り値上げで固定費上昇に追いつきたいと考えている。収益改善は、計画では売上370億円に対して、30億円の利益を確保し、'28年3月までの達成が目標。そのためには、収益性の高い製品を重点的に拡販するしかなく、鋭意取り組んでいるところ。

現地のパートナーの力も活用しつつ、自前で増やしていく部分もある。米国のパートナーはアメリカ東海岸にあり、当社の拠点はアメリカの西海岸。米国の油圧市場は、おおむね、東が7割、西が3割なので、東側はパートナーに開拓していただき、西側は自社で増やすことを考えている。

油研グループは75周年にむけ成長を続けていきます



—注意事項—

本資料に掲載されている、油研工業株式会社の業績予想など、実績値でないものは、将来の業績に関する当社独自の見通しであります。

これらは、現在入手可能な情報から得た情報をもとに当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は、記述されている業績予想および戦略と大きく異なる可能性があることをご了承ください。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。